

# 第2回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

平成28年7月20日(水)  
午後2時～4時  
特別第一会議室(別館9階)

## 次 第

### 1 開会

#### (1) 知事挨拶

### 2 議事

#### (1) 報告

高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用

#### (2) 意見交換

徳のある人材の育成

#### (3) その他

### 3 閉会

#### <配布資料>

資料1 高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用に関する論点

資料2 第1回実践委員会での主な意見

資料3 第2回静岡県総合教育会議開催結果

資料4 徳のある人材の育成に関する論点

資料5 県教育振興基本計画における「徳のある人材の育成」に関連する  
施策とその位置付け

別冊資料 ・第2回実践委員会参考資料

・読書ガイドブック

・静岡県子ども読書活動推進計画

・ふじのくに文化振興基本計画



地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会委員一覧

(委員長、以下 50 音順、敬称略)

氏 名	役 職
矢野 弘典 (委員長)	(一社) ふじのくにづくり支援センター理事長
池上 重弘 (副委員長)	静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター長
奥島 孝康	(公財) ボーイスカウト日本連盟理事長
片野 恵介	青年農業士
加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾専務理事、事務局長
加藤 百合子	農業シンクタンク「エムスクエア・ラボ」代表
清宮 克幸	ラグビートップリーグヤマハ発動機ジュビロ監督
後藤 康雄	(一社) 静岡県商工会議所連合会会長
白井 千晶	静岡大学人文社会科学部教授
鈴木 竜真	ふじのくにづくり学生研究会
竹原 和泉	横浜市立東山田中学校学校運営協議会会長
仲道 郁代	ピアニスト、桐朋学園大学音楽学部教授
埴 博	藤枝明誠中学校・高等学校校長
藤田 尚徳	株式会社なすび専務取締役
マリ クリスティーヌ	異文化コミュニケーター
宮城 聡	(公財) 静岡県舞台芸術センター芸術総監督
藪田 晃彰	日光水産株式会社代表取締役
渡邊 妙子	(公財) 佐野美術館館長

## 高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用に関する論点

地域の高等教育機関（大学、大学院、短期大学、高等専門学校）や研究機関は、地域社会をはじめ国際社会でも活躍できる高度な人材の育成と、知的・人的資源の地域への還元により、地域経済の振興、地域社会の発展、若者の地域定着に寄与することが期待されている。

そこで、高等教育機関相互の連携や、高等教育機関と研究機関の連携を図り、また、これら機関の知的・人的資源を一層活用することにより、本県の高等教育機能を充実させる必要がある。

### 論点 1：高等教育機関等の連携

高校生が県内高等教育機関で学びたいようになるよう、その機能を強化し魅力を向上させるために、高等教育機関や研究機関が、地域や分野に応じてどのように連携することが必要か。

#### 【検討の視点】

- ・ 県内の国立、公立、私立の垣根を越えた大学、大学院等の連携促進
- ・ 県内の東部、中部、西部それぞれの地域ごとの大学、大学院等の連携促進
- ・ それぞれの専門性や強みを生かした大学等の相互補完の促進

### 論点 2：高等教育機関等の知的・人的資源の活用

県内の高等教育機関等が有する研究成果や優秀な人材を地域の教育に還元するために、どのような取組が必要か。

#### 【検討の視点】

- ・ 小・中・高等学校において、高等教育機関や研究機関の教員・研究員が研究成果等をわかりやすく講義することによる交流の促進
- ・ 高等教育機関等において、小・中・高校生が本物にふれながら学ぶ会の提供

**論点 1：高等教育機関等の連携**

高校生が県内高等教育機関で学びたいとなるよう、その機能を強化し魅力を向上させるために、高等教育機関や研究機関が、地域や分野に応じてどのように連携することが必要か。

**県内大学をより魅力的にするための意見**

- なぜ、県内の高校生は東京の大学を選ぶのか。静岡の大学を選んでもらうためには、静岡の大学や大学の先生方が魅力的でなければならない。例えば、学校の中に閉じこもり、勉強だけを教えている先生よりも、地域社会とつながっている先生の方が魅力的だと思う。(藤田委員)
- 中教審は、実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関の創設を文科相に答申した。農業においても、**第一次産業と学術を融合した「専門職大学」**等を創設し、さらには、高等教育機関や研究機関が連携することで、**専門知識や研究成果を農業者へ還元する仕組み**ができないか。(片野委員)
- 魅力的な高等教育機関を目指すために**留学生の受入れも重要**。留学生を受入れると、日本の学生が刺激を受ける。留学生は母国語、英語、日本語ができる。留学生と接し、語学の重要性を学ぶ日本の学生も多い。それは静岡県の中でできる国際交流である。(加藤暁子委員)
- 大学の国際化は大切。留学生の**宿舎や奨学金制度、ホストファミリーなどの受入れ環境を充実**させる。(矢野委員長)
- 今の学生は忙しすぎて時間がない。例えば、静岡の大学に入ったら1年間カリキュラムを真っ白にして、学校で全く授業をしないと、独自性を出したら魅力的な大学になる。(清宮委員)
- 色々な提案はあっても、お題目だけになり、何一つ定着していない。教育の基本は叩き込むこと。英国のパブリックスクールは午前中勉強、午後はスポーツに熱中する。その中で、子供たちの自立性を育てていく。大切なのは、**一斉にやるのではなく、うまくいっているところをモデルケースとしてバックアップし、成功事例として広めていくこと**。(奥島委員)

## 大学、大学院等の連携促進に関する意見

- 県内にはたくさんの大学や研究機関がある。その一方で、それらの大学や研究機関は東・中・西のエリアに点在しており、物理的に離れている。その距離は心理的な障壁にもなっている。(池上副委員長)
- 大学の教員の多くは、コンソーシアムの事業を知らない。コンソーシアムの事業内容を大学の教員に見せることが重要。成果をパッケージにして、各大学でプレゼンの機会を設けてみてはどうか。(池上副委員長)
- コンソーシアムは大学生に知られていない。静岡県は東・中・西に分かれているし、首都圏と比較すると大学数も少ない。だからこそ、静岡ならではのコンソーシアムの在り方を考えなければならない。(鈴木委員)
- コンソーシアムの Facebook を見たが、「いいね」が少ない。県のHPや観光案内のHPにリンクを貼ったらどうか。また、県大のパンフレットを見ると、お茶の授業など、静岡ならではの授業を行っているが、世の中の人に知られていない。知られるための工夫が必要。(加藤暁子委員)
- コンソーシアムをもっと機能させるには、専従のスタッフを増やすことが必要である。(池上副委員長)
- 県外の大学が県内に設置している研究機関にも、コンソーシアムに参加してもらったらどうか。(埴委員)
- コンソーシアムの研究助成事業を活用したことがある。コンソーシアムの構成団体は高等教育機関だけでなく、地方自治体も含まれているので、地域の課題を解決する研究がしやすかった。(白井委員)
- コンソーシアムの取組でもっと進めてほしいのは、単位互換事業である。静大は県大と協定を結び、積極的に連携しているが、他大学との連携は進んでいない。コンソーシアムに参加している大学の単位互換が進めば、教員間の交流や学生間の交流が進む。(白井委員)
- コンソーシアムとインターン制度を組合せ、学生が経済的な自立を学ぶ仕組みができないか。大学のカリキュラムの一般教養に、農業や芸術、働くことの意味を学ぶ授業など選択肢を増やしたらどうか。(藤田委員)
- アジアの方は日本食に興味がある。コンソーシアムで海外の大学の農学部と連携し、相互に留学生を派遣するなどして、直接海外での産業化と結び付けることはできないか。(加藤暁子委員)

## 論点2：高等教育機関等の知的・人的資源の活用

県内の高等教育機関等が有する研究成果や優秀な人材を地域の教育に還元するために、どのような取組が必要か。

### 高大連携に関する意見

- 高校生と大学生が一緒に何かをやる場を作ることが大事である。高校生と大学生が地域のグローバルな課題を解決することはお互いの勉強になる。そのような取組を全て単位認定の対象にすると、高校生が参加しにくくなるので、敢えて単位認定の対象にしない方法もある。  
(池上副委員長)
- 小・中・高等学校は、高等教育機能や研究機関に対して、どのようなニーズがあるのか、体系的に示していただき、そのニーズと高等教育機関や研究機関が持っているシーズをどのようにつなげていくのか、マッチングを「見える化」していく必要がある。(池上副委員長)
- 学校現場が使いやすい、外部人材の「見える化したリスト」を作る必要がある。加えて、リストを活用できるコーディネーターが不可欠である。小中学校や高校では、学校支援地域本部などのコーディネーターがいる。高等教育機関には地域連携の事務的な担当者はいるかもしれないが、子供たちを育てるというミッションを共有したコーディネーターがいない。  
(竹原委員)
- (上記に関連して)県内の公務員を対象に、大学の教員が講師を務める研修があり、講師リストが作られている。既にある「見える化したリスト」を小中学校や高校に公開し、広く情報を共有したらどうか。  
(白井委員)
- 高校生の時に海外の留学生との交流を経験していると、大学に入学してから、留学生との交流に関して、フットワークが軽くなる。また、ホームステイなどをすると、それで終わりではなく、その後のつながりが深くなり、子供たちにとっては良い教育の機会となる。(埴委員)
- 静岡の大学は地域の殻に籠っていると県内の高校生に思われがちである。地元の大学生と話すとか高校生の進路希望が変わるかもしれない。コンソーシアムの事業で1回だけ大学に来て印象に残らない。高校生と大学生が継続的に話す機会をコンソーシアムで設けたらどうか。(鈴木委員)
- コンソーシアムで高校への出前講座を行っているが、逆に、土曜日などを活用して高校生が地域の大学の講座を受講するなど、高校生が大学のキャンパスの空気に触れることも大切である。(加藤暁子委員)
- コンソーシアムで大学と高校が交流し、大学の情報が得られることはありがたい。一方、中学や高校の学生と教員は大学のことをよく知る必要がある。(埴委員)

## 高校と美術館や企業等との連携に関する意見

- 「徳のある教育」は知識だけでなく、感性を育まなければならない。感性を育むのは高等教育では遅い。小学校の間に情操教育をしなければならない。「キッズアートプロジェクト」により、県内の小中学生は無料で美術館に入館できるが、有料の保護者は入館しない。したがって、子供は芸術作品を見ても感動を伝える相手が横にいないという状況がある。感性は感動した時に保護者や先生に感動を伝えることで育まれる。  
(渡邊委員)
- 美術館では学校から直接依頼を受けて、ボランティアで出前講座等を行っている。市町教育委員会が間に入って、予算措置をしてくれると思う。本物の芸術に触れる体験を通して子供の情操を育むことが大事。美術館と学校教育の結び付きを改善できないだろうか。(渡邊委員)
- 小中学校や高校と大学や美術館との連携が、単発のイベント的に行われている。連携は、継続的に行わなければならない。授業など日々の「学び」の中に落としこんで、社会に開かれた教育課程を作ることが大切。  
(竹原委員)
- 漁業に関して言えば、静岡県は県立漁業高等学園や県立焼津水産高校があり、環境は恵まれている。ただし、高校生の知識も現場レベルでは通用しない。企業や漁業者が、現場で役立つ実践的な知識や技術を高校生に教えていかないと、漁業は継続できない。(藪田委員)
- 菊川市で中学生を対象に、アグリーツという事業を立ち上げた。農業を通じて、中学生にリベラルアーツを学んでもらい、起業家を育てる。市内の中学校は全校協力してくれる。また、民間企業や高校生、大学生も協力してくれる。地域の方は、畑と空き家を提供してくれた。  
このように、連携したいと考えている人はたくさんいるが、実践する場所がない。小さくてもいいから、地域ごとに実践する場所を作ると協力してくれる人はたくさんいる。(加藤百合子委員)
- 高等教育機関や研究機関相互の連携も大事であるし、高等教育機関や研究機関が小中学校や高校と交流することも大事である。この場合の研究機関は、理工系の研究機関だけでなく、人文系の研究機関なども含めて、幅広く連携することが大切である。(矢野委員長)



## 第2回静岡県総合教育会議 開催結果

1 開催日時 平成28年6月21日（火）午前10時30分～12時

2 開催場所 静岡県庁別館8階第1会議室A、B、C、D

## 3 出席者

静岡県知事	川勝 平太
教育長	木苗 直秀
教育委員	加藤 文夫
	溝口 紀子
	斉藤 行雄
	興 直孝
	渡邊 靖乃
地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会	
副委員長	池上 重弘

4 議 事 高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用

## 5 出席者発言要旨（抜粋）

出席者から以下のような提案が出された。

## ○県内高等教育機関等の連携に関する意見

- ・「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の充実
- ・県版「大学共同利用研究機関」の設立検討

## ○県内高等教育機関の魅力向上に関する意見

- ・ボルドー大学のワイン醸成学部のように、その地域ならではの魅力的な学問を学べる環境整備
- ・農林技術研究所と農林大学校を受け皿とした専門職大学の創設検討

## ○高等教育機関等の知的・人的資源の活用に関する意見

- ・高大連携推進事業(高校生アカデミックチャレンジ等)の拡充
- ・高校の文化系部活動を大学教員や大学生が支援する仕組みづくり

## 6 知事総括

本日の総合教育会議において、皆様から様々な御意見をいただいた。具現化に向けて時間を要するものもあるが、それぞれの執行機関で責任を持って取り組む。

## 高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用に関する意見への対応

「高等教育機関の機能強化と知的・人的資源の活用」に関し、第1回実践委員会の意見を踏まえ、第2回総合教育会議の協議により、知事と教育委員会とで「具現化に向けて時間を要するものもあるが、それぞれの執行機関で責任を持って取り組んでいく」ことが合意された。

このうち、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの見直し・充実や専門職大学の創設検討など、具現化に向けて時間を要する課題については引き続き検討していくほか、協議（意見）の内容を踏まえ、以下の事項については、担当部局等により早急に実施した。

### ○高等教育機関等の連携

協議（意見）の内容	実施内容
ふじのくに地域・大学コンソーシアムの短期集中型単位互換授業の取組をもっと進めるべき	これまで、「富士山」をテーマに単位互換授業を実施していたが、本年度は「富士山」に加え「お茶」をテーマにした授業を実施。参加大学・学生も増加する見込み 参加大学：H27 5大学 → H28 8大学 参加学生：H27 45人 → H28 80人（予定）
ふじのくに地域・大学コンソーシアムの事業を、大学教員や大学生、世の中にもっと周知する取組が必要	県HPに大学コンソーシアムのHPのリンクを設けていたのみであったが、新たに若者向けの県 Facebook「みんなて語ろう！静岡の未来」に大学コンソーシアムの Facebook のリンクを設置

### ○高等教育機関等の知的・人的資源の活用

協議（意見）の内容	実施内容
小中高のニーズと高等教育機関が持っているシーズをどのようにつなげていくのか「見える化」が必要	県内各大学に依頼し、各大学に高大連携の窓口を設置して、すべての高校に窓口を周知
高校生が地域の大学の講座を受講するなど、高校生が大学のキャンパスの空気に触れることが大切	これまで、理数分野、農業・工業（デザイン含む）・商業の産業分野において、大学で大学教員からアカデミックな内容を学ぶ機会を高校生に提供していたが、今年度から、介護士や保育士などを目指す高校生に向け、家庭・福祉分野にも対象を拡充

## 徳のある人材の育成に関する論点

---

本県は、学校・家庭・地域の連携の下、自然や社会の中での体験活動や国際交流、芸術や文化、読書等に親しむ機会の充実を図り、**心身の調和のとれた徳のある人材の育成**を目指している。

こうした中、近年、子供から大人まで「読書離れ」が進んでいると言われている一方、自然体験や生活体験が豊富な子供ほど、自己肯定感が高いとの調査結果も示されている。

徳のある人材の育成を進めるに当たり、子供の頃から、**感性を磨く**とともに、**社会性を育む**ことが特に重要であり、そのためには、読書活動や様々な体験活動の機会をより一層充実させる必要がある。

### 論点1：感性を磨く機会の充実

子供たちが、豊かな創造力、表現力を育み、感性を高めるために、読書活動や本物の芸術・文化に触れる機会を充実させる必要があるが、具体的にどのような取組が考えられるか。

### 論点2：社会性を育む機会の充実

子供たちのコミュニケーション能力や他者を思いやる心を育むために、様々な体験活動を行う機会や規範意識・社会性等を学ぶ機会を充実させる必要があるが、具体的にどのような取組が考えられるか。

## 県教育振興基本計画における「徳のある人材の育成」に関連する施策とその位置付け

### 第2章 ライフステージの円滑な接続による人づくりの推進

#### 2 青少年期の教育の充実

##### (1) 徳のある人間性の育成

ア コミュニケーション能力や良好な人間関係をつくる能力、高齢者や障害者を思いやる福祉の心等を育むとともに、児童生徒が生活している地域への愛着を高めるため、多くの人と触れ合うことのできる様々な体験活動の機会の充実に努めます。

- ・地域の特色を生かした学習の推進
- ・人間関係づくりプログラムの活用推進
- ・保育・介護体験実習の実施 など

イ 豊かな創造力、表現力を育むため、児童生徒の読書環境を整備するとともに、読書に対する気運を高めるための研修や講座を設けるなど、「読書県しずおか」づくりを推進し、児童生徒の読書活動の充実に努めます。

- ・読書ガイドブックの作成・改訂・活用
- ・子ども読書アドバイザーの養成・活用 など

ウ 基本的な生活習慣、社会におけるモラルやマナー、忍耐力等を身に付けさせるため、地域人材の活用をはじめとする社会総がかりによる取組を推進するとともに、発達段階に応じた道徳教育を推進します。

- ・学習指導要領に対応した道徳教育の充実
- ・児童生徒が自らきまりやマナーについて考え行動する取組の推進 など

エ 児童生徒の社会性を育み感性を磨くために、特別活動や外部指導者派遣等によるスポーツ活動・文化活動等の部活動の充実とその成果の検証を進めます。

- ・ボランティア活動の推進
- ・大学等との連携による部活動支援ボランティアの検討と推進 など

オ 人権教育を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童生徒を育成します。

- ・学校における人権教育の充実
- ・参加体験型人権学習の普及 など